

発達障害と向き合うということ

横須賀市立武山中学校 三年 笹山 有希実

皆さんは「発達障害」という言葉を知っていますか。私たちの仲間の中には、人とうまく関われなかったり、感情をコントロールできなかつたりすることで、社会生活に溶け込めずにいる人がいます。私はそういったことをあまりよく知らずに過ごしてきました。

私には今、支援級に在籍する弟がいます。普段は周りの人たちに支えられて、楽しく学校に通っていますが、学校という集団生活の中で抱える問題も多く、本人も両親も苦い思いをしている時があるのを私は見てきました。弟は家族以外の人と話すことができません。友達や先生と話したくないから話さないのではなく、不安や、言葉でのコミュニケーションに苦手な思いから話せなくなってしまうのです。

弟は小さい頃から同年代の子の輪に入ることが苦手でした。そして幼稚園に入園した弟は、なかなか馴染むことができず、みんなと同じ行動ができなかつたり、時にはパニックを起こして暴れたり、

ついには、言葉を発することを止めてしまいました。そんな弟を見た両親は、戸惑い、育て方が良くなかったのかと、とてもショックを受けたそうです。

けれども、そんな弟や両親を救ってくれたのが、相談に乗ってくれた療育センターでの支援、そして理解を示してくれた先生方や、周りの保護者の方々でした。次第に弟は友達との関わりも増えて、たくさんのお友達から好かれて、表情も明るくなっていきました。

その頃の私は、両親が甘やかしたから弟はわがままになってしまったのだと思いました。突然母の弟に対する態度も変わった感じに感じ、私にも「あまり責めないで優しく接してあげて」と言われたけれども、「なぜ弟にだけ？」と、ずるいとも思っていました。

弟は電車が大好きです。そこから電車に関する文字や数字、地図などの知識をどんどん身につけ、それらをほめられることによって自信をつけていきました。電車のことを話す時や、実際に電車を見たり乗ったりする時は、いつも目をキラキラと輝かせ、生き生きした表情をしています。また、弟は本当は人懐っこい性格で、みんなと仲良くしたいと思っていることを少しずつ知るようになりました。そんな弟の笑顔を見ているうちに、私も弟や両親に協力しようと思

うようくなりました。

小学校に通う弟は、今でも授業に参加できなかつたり、お友達とトラブルになって攻撃的になったり、パニックになったりすることがあります。得意なことで不得意なことの差が大きいため、勉強に集中できなかつたり、家でも宿題に全く手がつかない時もあります。

一見「普通」に見える弟ですが、それだけを聞くと「わがままで自分勝手」と思われがちです。一番理解されづらいのが、相手が良かれと思っしてくれただけのことや、言っしてくれただけのこと、弟にとっては、状況を読み取れず、注目を集めてしまったことに不安を感じてパニックを起こしてしまう時です。

しかし、弟にはできることを頑張りたいという気持ち、人を大切に思いやる心をちゃんと持っています。気持ちを察して不安を取り除いてあげれば、落ち着いて過ごすことができます。弟の学校の仲間たちも、弟の行動を不思議に思ったり、戸惑ったりすることもあるだろうに、距離を置くこともなく、いつも仲良くしてくれています。それは、家族の力だけではなく、周りの人たち、先生方や友達たちが、弟を理解しようとし、弟の良いところに気がついてくれていたからこそ、ここまで、成長することができたのだと思います。

私の弟のように、目に見える「障害」はなくとも、気持ちや行動のアンバランスさから困っている人たちがいます。そういったことに気がつかないまま、「わがまま」とか「しつけが悪い」と言われ続けて、孤独や偏見を抱えたまま生活している人もいるそうです。そしてその目は決して本人だけでなく、家族にも向けられてしまうこともあるそうです。

私も発達障害についての詳しい知識はまだありません。けれども、どんな人にもその人それぞれの個性があるのと同じだと思っています。私たちは、人と比べて目立つこと、常識外れなことに目を背けがちですが、相手を理解しようとし、自然に関わることができれば、社会の中で生きにくさを感じている人もずっと楽になると思います。今回この作文を書くにあたって、弟のことを書いても良いのか悩み、両親にも相談しました。しかし、このことは隠すべき恥じることではないと思うし、皆さんにもっと知って欲しいというのが私たち家族の思いです。

弟のような人たちが「障害」としてではなく、「個性」として受け入れられ、偏見のない世の中になれるように願っています。